

私を変えた先生との出会い

「みんな違ってみんないい。」この言葉は私にとって宝物である。

この宝物との出会いは、今から遡ること11年前、私が小学校5年生の時である。その当時、私は授業などで発言する機会があっても、めったに手を挙げて自分から発言をしようとする事はなかった。それは、単に答えが分からないからではなく、発言することに恥ずかしさを抱いていたからである。いや、というよりも発言した結果、間違えてみんなからバカにされることへのリスクを避けていたと言った方が正しいかもしれない。そんな中、5年生になりクラスも変わり、新しい生活が始まった時、その時の担任が言った言葉、それが「みんな違ってみんないい。」であった。

最初の頃は、別に気に留めることがなかった。しかし、その先生は口癖のように繰り返し繰り返し、僕たちのクラスに訴えかけていた。そして、ある授業でのことである。その日は、運動会間近であり、その練習が楽しくテンションが上がっていたことを覚えている。その日の算数の授業で、私は久しぶりに手を挙げて発言した。しかし、残念なことにその発言した答えは間違っていたのである。それが分かった途端、私は恥ずかしさで顔を机に隠した。すると、その先生は「みんな違ってみんないい。あなたの頑張り先生も見ていますし、みんなも認めています。」と言ったのだ。その言葉を聞き、私は安心した。周りのクラスの仲間に笑う人なんて一人もいなかった。私はその時初めて、発言する喜びを感じた。以来、私は発言するようになっていった。

私は今、教師を目指している。もちろん、この宝物の言葉は、大切に自分の心の中に残っている。そして、自分もあの時出会った先生のように、一人一人を認めてあげられるような先生を目指すとともに、言葉の宝物を伝えていきたい。

向 孝太
(大学生)